

## 2021 年度外国語学部 FD 活動方針・活動計画

(英米学科、スペイン・ラテンアメリカ学科、フランス学科、ドイツ学科、アジア学科)

外国語学部では、2021 年度においても、FD 研修会および学部自己点検・評価委員会懇談会を軸にして、FD 活動を進める。

2020 年度の FD 研修では、本学部の宮原佳昭准教授（アジア学科）、松川雄哉講師（フランス学科）、水守亜季講師（ドイツ学科）、鈴木史己講師（アジア学科）による「初習外国語教育におけるオンライン授業の成果と課題」と題した講演会を実施した。2020 年 4～5 月の緊急事態宣言以来オンライン授業を余儀なくされていた中、学部構成員の授業運営上のスキルを向上させ、オンライン・ツールの教育プログラムへの活用を模索することを目的としたものだった。2021 年度も引き続き、2017 年度の FD 研修以来継続しているアクティブ・ラーニング、オンライン授業、E-Portfolio の効果的活用法に加え、外国語教育の現状と課題を的確に把握しつつ、2020 年度より新たに 3 学科に設置した「研究プロジェクト」科目を含めた新規／既存の卒業論文評価基準・項目のさらなる検討と改善を進め、学士（外国研究）の学位授与へとつながる教育の充実化を図る。さらに、これらのテーマに関わる外部講師を招聘して研鑽を深めるとともに、オンライン・ツール活用を包含した教育能力の向上と、より効率化された授業運営を目指すこととする。

学部自己点検・評価委員会懇談会では、以下に示す各学科の活動方針・活動計画の実施状況を中心に、学科横断的に教員間での意見交換を行う。

2021 年度の各学科の FD 活動方針・活動計画は、以下の通りである。

### 英米学科

- 1) 学科が管理する LL 施設の有効利用、および TA の効果的な活用方法などを検討する活動を継続していく。
- 2) 学科内ミニ FD の実施も含めて、学科内 FD 活動をさらに充実させる。
- 3) 学科カリキュラムと有機的に結び付けた視点から、長期の派遣留学生数の維持および更なる増加を図る方策の検討を行う。
- 4) 学科必修科目の内容および評価の標準化の努力を継続する。
- 5) 学科の各授業科目をさらに充実したものにするには何が必要か、学科会議などで議論を深めていく。

### スペイン・ラテンアメリカ学科

- 1) 2021 年度は、新たに外国語教育センターの業務を中心とする 1 名の教員を学科に迎えることになる。他の学科教員が新任教員への適切なサポートがなされるよう、学科内での協力体制の構築に引き続き努力する。
- 2) ラテンアメリカ研究センターとの連携を通じ、引き続き国内外の優れた研究者を招いて（実地で可能な状況になれば実地で、難しい場合は Zoom 等補助的手段を用いて）講演会・

研究会を開催し、相互の意見交換と研究水準向上につなげる機会を持つ。

3) 国内外のカトリック大学との教育・研究面での協力・交流関係をさらに広げる。例えば、本学科と上智大学外国語学部イスパニア語学科の間で共同の科目運営ができないかどうか、あるいは、本学のラテンアメリカ研究センターと上智大学のイベロアメリカ研究所・ヨーロッパ研究所との交流を通じた連携が可能であるかどうかの検討を進める。また、コロナ禍のため 2020 年度は一旦中断せざるを得なかった、教員の相互訪問による輔仁大学（台湾）との交流の再開も視野に入れる。

4) 2020 年度末に新たな版の準備が整った学科の教育指導冊子 *Un, dos, tres al español* については、引き続き細かい部分の改訂作業を行い、さらなる内容の更新と充実を進める。

5) 継続的な計画として、各教員の得意とする分野の知識・技能を活用し、学科内での業務分担を円滑化するとともに、教員間での相互支援を促進する。例えば、2020 年度に対応が迫られた Zoom の利用等、教育研究面でより効果的に情報機器の利用ができるよう適宜助言をするなど、教員間でリテラシー向上を図る機会をできるだけ持つよう心がける。

6) 学科必修スペイン語科目、あるいは、その他の言語科目については、引き続き、言語科目コーディネーターを中心に、運営上の微調整を行う。2020 年度は残念ながらコロナ禍のため、学科教員と非常勤講師が集って直接意見交換を行う機会を作ることができなかったが、2021 年度はこのような機会が持てないか検討を続ける。メール等の代替手段も含め、2020 年度同様、非常勤講師の先生方との面談・意見交換の機会を持つ。

7) 新型コロナウイルス感染拡大の影響で 2020 年度不開講となってしまった「海外フィールドワーク B」（メキシコ）は 2021 年度も不開講が決定しているため、上智大学外国語学部イスパニア語学科とともに、「海外フィールドワーク B」（コロンビア）をオンラインで実施するかどうか、また、実施する場合にはその具体的方法について協議する。「海外フィールドワーク A」については、状況を見ながら、実地で行うか、あるいは 2020 年度同様、オンラインで実施するか、検討をかさねる。

8) 2020 年度、学外におけるスペイン語スピーチコンテストは中止になったものが多かったが、2021 年度は開催状況を見ながら、そうしたイベントへの積極的参加を促すよう、学生への周知を図り、必要な指導を行う。

#### フランス学科

1) 2020 年度に引き続き、学科内において定期的にミーティングを開催し、授業内容の検討ならびに科目登録・授業運営方法の見直しを行う。また、フランス語科目担当の非常勤教員を集めて教科書会議を開催し、授業方法について事前の打ち合わせを行う。

2) 履修ガイダンスや学び方講座の開催、オフィスアワーの設置、学科ウェブサイトや SNS の充実などを通じて学生の履修指導、留学支援、学習支援を継続する。

3) 学生の海外留学を促進するとともに、フランス語劇、各種フランス語スピーチコンテストなどフランス語を活かした各種課外活動への参加を奨励する。

4) フランス語教育の効果を測定し、その結果をさらにその後の教育に活かすため、実用フ

ランス語技能検定や TCF などの外部語学試験の集団受験を促す。

5) 学科の Facebook の更新、オープンキャンパスや高等学校での模擬授業により、学科の広報活動を行いつつ、各専攻の特長をさらにアピールするよう努める。

6) フランス語圏に関する専門的知識を有する専門家を招いて教員の研究支援に資する講演会を開催する。

#### ドイツ学科

1) 新型コロナウイルス感染拡大以降、1年以上が経過したが、引き続き感染予防を徹底した授業運営が求められている。今後も授業運営等が円滑に進むよう教員同士が、コミュニケーションを密にして細心の注意を払う。

2) 今年も、学科専任教員・外国語教育センター所属 L.I.教員・非常勤講師との間で学生の学習状況についてクォーター毎に議論し、教育環境を充実する。

3) 昨年度よりオンラインでの講演会が広く可能となった。オンライン開催と対面開催のメリット・デメリットを見極めながら講演会を開催する。

4) 今年度も提携校のデュッセルドルフ大学から学生を招聘することは難しいので、ドイツのオンライン語学コースへの参加を学生に促すなどして、現状で可能な範囲で日独交流手段を模索していく。

5) 学科伝統の「弁論大会・オーラルインタープリテーション大会」の開催を継続するとともに、「ドイツ語劇上演」の継続可能な体制の構築を検討する。

6) 学科 HP を定期的に更新するとともに、学外への情報発信の重要なプラットフォームと位置づけ有効活用を図る。

#### アジア学科

1) 引き続き外国語科目と演習科目に重点をおいて、授業の振り返りを継続する。

2) 「海外フィールドワーク B」の 2019 年度実施状況と実施後の評価および点検を踏まえて、新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつ、2021 年度の実施に向けた準備を慎重におこなう。

3) 効果的な学生指導ができるよう、引き続き学科教員間および学科教員と非常勤講師との緊密な連携を図る。

4) 学科作成ホームページの定期的な更新による充実を図り、受験生や在学生に本学科の特徴を十分に伝えられるよう工夫する。

5) インドネシア語学習の意欲を高め、能力を向上させる一助として、2020 年度は中止としたインドネシア語スピーチコンテストを実施する方向で準備を進める。

6) 中国・台湾およびインドネシアへの国費留学希望者に対する説明会や個別支援を継続する。

7) 2020 年度から始めた輔仁大学の学生との SNS を利用した交流プログラムを継続して、近い将来に海外フィールドワーク A の授業計画に組み込めるように持っていきたい。

- 8) FA.com など在学生の課外活動への支援を継続するとともに、これら在学生の協力を得て1年次生の大学生活を支える体制を堅持する。
- 9) キャリア教育については、キャリア支援課と連携しながら1年次生および2年次生に対して講習の場を設けて、キャリア意識の形成および向上を図る。
- 10) Q1の授業について、大学の方針に基づき対面を前提に準備を進めているが、オンラインへの変更も視野に入れて授業の進め方や成績評価についての検討をおこなう。

以上